ヒト腸管内 Oxalobacter formigenes の検出と 関連遺伝子構造の検討

千葉大学医学研究院遺伝子機能病態学(主任:伊藤晴夫教授) 小玉 孝臣, 三上 和男*, 赤倉功一郎**, 武井 一城*** 納谷 幸男, 植田 健, 伊藤 晴夫

DETECTION OF OXALOBACTER FORMIGENES IN HUMAN FECES AND STUDY OF RELATED GENES IN A NEW OXALATE-DEGRADING BACTERIUM

Takaomi Kodama, Kazuo Mikami, Koichiro Akakura, Kazushiro Takei, Yukio Naya, Takeshi Ueda and Haruo Ito From the Department of Urology, Graduate School of Medicine, Chiba University

The first objective of the present study was to examine the presence of Oxalobacter formigenes (an oxalate-degrading bacterium in the human intestine) according to sex in a large number of Japanese. The second objective was to study the presence of three related genes in Bifidobacterium breve, which is considered to be a new oxalate-degrading bacterim. Fecal samples were collected from 55 male and 37 female healthy volunteers. O. formigenes was detected by a polymerase chain reaction (PCR) and a culture-based method. DNA was amplified by the PCR method including the site of important base sequences of each gene in order to detect oxc, frc, and OxlT. O. formigenes was present in 80% of 54 male and 62% of 34 female subjects in the PCR-based assay, while it was present in 62% of 40 male and 50% of 24 female subjects in the culture-based assay. The partial base sequences of the three related genes in B. breve were determined. The RNA polymerase-binding site in promoters and the ρindependent termination sequence were preserved in oxc and frc. In conclusion, the rate of the presence of O. formigenes was the same as in previous reports. Female subjects showed a 15% lower rate than males. B. breve is considered to be an oxalate-degrading bacterium since it was found to have oxalic acid-degrading ability and three genes involved in oxalate degradation.

(Acta Urol. Jpn. 49: 371-376, 2003)

Key words: Oxalate-degrading bacteria, Human feces, oxc gene, Polymerase chain reaction

緒 言

ヒトが日常摂取する食物には、シュウ酸含量の多い ものが広範囲に存在する. 尿中に排泄するシュウ酸の 10~20%が食事に由来すると言われていたが、最近、 Holmes らは、それは25~40%に及ぶと報告した1) 残りは、ビタミンCの分解と肝臓で内因性に産生され たものである. 尿路結石の約80%が、シュウ酸カルシ ウムを主成分とするカルシウム結石であるが, Robertson らは、尿路結石の再発率は尿中のカルシウ ム濃度とは関係がなく、シュウ酸濃度と直線関係があ ることを示した²⁾ 結石形成の危険因子は、尿中シュ ウ酸が重要であることが明らかになった.

1980年 Dawson らは、羊の反芻胃よりシュウ酸塩

* 現:済生会習志野病院泌尿器科 ** 現:東京厚生年金病院泌尿器科 *** 現:千葉市立青葉病院泌尿器科

を分解する細菌を見つけた $^{3)}$ この細菌は、後に Oxalobacter formigenes と命名, グラム陰性の偏性嫌気性 桿菌であった⁴⁾ 基準株は OxB である. 1985年 Allison らは、ヒト腸管にも類似の菌が存在することを初めて 見出した4.5) これらの細菌は、炭素源としてシュウ 酸塩のみを利用し、これ無くしては生育しえない. 以 後、腸管におけるシュウ酸の吸収にシュウ酸分解菌が 関与する研究が進み始めた. 摂取されたシュウ酸が腸 内で分解されれば尿中シュウ酸排泄のうち、外因性に 由来する部分の吸収を減少させる可能性がある. その 結果として、結石の形成を減じることができよう. 一 方,シュウ酸分解菌の不在は,高シュウ酸尿のリスク を増大し、結石の形成 再発を招くとの報告がされ 1-6~8)

O. formigenes は、菌体に含まれる2つの酵素タンパ ク, formyl-CoA transferase (コード遺伝子は frc) 9) と, oxalyl-CoA decarboxylase (コード遺伝子は $oxc)^{(0)}$ により、シュウ酸塩を最終的にギ酸塩と CO_{\circ}

	Gene	Primer	Position (5'; 3')	Size (bp)
		TATGCGGCATACTCGGAA	(-67; -50)	
Α	oxc	TTCCTTCGATGTAACCGG	(214; 197)	281
		ATACTCGGATTGACGT*	(-59; -43)	(273)
		AGTTAGTACCTTCAGCCCTTTG	(-116; -95)	
	frc	TGATCATCTGTTCCAGAAGCTC	(262; 241)	378
		AGCCCTTTGGGCGAAGTTTTTC*	(-103; -82)	(365)
В	oxc	GAAACCACGCAAACGTCTTGA	(1,242; 1,262)	
		CTGGTTGTGGATCTGCTTCGTT	(1,477; 1,456)	236
С	OxlT	TCGGCCGTTACAAAACCATGT	(845; 865)	
		CTTGGAATAACGAAGGTAGCC	(1,196; 1,176)	352

^{*:} Nested primer.

Fig. 1. Primer set designed for amplification of each genes. A: Promoter regions of oxc and frc genes. B: Thiamine pyrophosphate binding site of oxc gene. C: OxlT gene.

に分解する. もう 1 つ, oxalate $^{2-}$ と $formate^{1-}$ の交 互輸送に関与する膜タンパクである OxlT 遺伝子も存 在する $^{11)}$

本研究では、多数の日本人の糞便検体を用い、O. formigenes (OxB) の有無について性別で調査した。そして、新たに見出したシュウ酸分解菌については、3つの関連遺伝子について、OxB 株の遺伝子を基にして塩基配列の相違について検討した。

対象と方法

1. ヒト糞便中 O. formigenes (OxB) の検出

ヒト糞便は採取後,ただちに炭酸ガスを充満した嫌気ボックスにいれて研究室に運んだ.すぐに実験に用いない場合は -80° C に保存した.試料は健康人 $(20\sim70$ 代の成人,結石症の既往は無い)男性55人,女性37人を集めた.PCR(polymerase chain reaction)用検体の調製と OxB の検出としての PCR 法については,既発表にしたがった 12 さらに,シュウ酸カルシウムにより白濁した培地がシュウ酸分解菌のコロニーによって透明になる検出法については,Allison らの方法 4 により,培養液を改変して行った.2.シュウ酸分解菌の遺伝子解析

(1) 検体の調製

細菌株は、Oxalobacter formigenes A (ATCC 35274) と Bifidobacterium breve (YIT 4014) を用いた. 前者は 0.2%シュウ酸, 1%グルコースを含む PYG, 後者は 1%グルコースを含む GAM 培地により嫌気培養 (37°C) した. 培養後, 菌体より粗 RNA, DNA を抽出した.

両菌株については、予備実験として0.2%シュウ酸、1%グルコースを含む PYG の寒天培地にて嫌気培養 $(37^{\circ}C)$ し、コロニーの周囲が透明になることより、シュウ酸塩の分解を確認した。 さらに、oxc、frc の各塩基配列より作成したオリゴヌクレオチドプローブを

用いて RNA ドットブロット ハイブリダイゼーション (DIG システムキット. ベーリンガーマンハイム(株)) を行い, ともに陽性を示した.

(2) PCR 法と DNA シークエンシング

 oxc^{10} , frc^{9} , $OxlT^{11}$ の各遺伝子の塩基配列より,各プライマーの設定を行った (Fig. 1). PCR 増幅部位は,各遺伝子の重要塩基配列と考えられるところを選択した. PCR 反応液の組成は既報 12) と同様であり,DNA 量は $50\sim100$ ng 使用した. ポジティブコントロールは OxB を用いた. アニーリング温度は,プロモーター領域用 (Fig. 1A) oxc の場合,第 1回PCR が $52\sim53^{\circ}$ C,第 2回 nested プライマー(* 印)使用時が $50\sim51^{\circ}$ C である. frc は同様に $52\sim53^{\circ}$ C および 56° C である. Thiamin pyrophosphate 結合部位 (TPP, Fig. 1B) は $55\sim56^{\circ}$ C, Ox1T (Fig. 1C)は 53° C である. PCR のサイクルプログラムは Fig. 2 に示した.

PCR プロダクツに目的バンド以外の非特異的バンドが出現する場合は、必要バンドのみを切り出して、精製後、次のステップに進んだ、再 PCR は、プロダクツの 1/10量を用いて、反応サイクル (Fig. 2) の後半部分にプリヒートを加えて行った、精製した目的バ

	Temperature	Time	Cycle
Denaturation (first)	95°C	3 min	1
Denaturation	95°C	40 sec	
Annealing	$x^{\circ}\mathbf{C}$	2 min	5
Extension	72°C	1 min	
	↓		
Denaturation	95°C	30 sec	
Annealing	$x^{\circ}\mathbf{C}$	30 sec	30-35
Extension	72°C	30 sec*	İ
Extension (final)	72°C	7 min	1

^{*:} One min in case of the fre gene.

Fig. 2. PCR thermal cycles.

No. of Samples* Detection Male Female PCR positive and oxalate degradation positive 24 8 6 PCR positive and oxalate degradation negative 14 2 PCR negative and oxalate degradation positive 0 PCR negative and oxalate degradation negative 2 5

Table 1. Coordinate detection of Oxalobacter formigenes using the PCR-based and culture-based assay systems

ンドの DNA は、サブクローニング操作を経て、シークエンシング用 DNA テンプレートを作成した. 化学発光を利用した PCR ダイレクトシークエンシングを行い塩基配列を決定した 12)

(3) DNA ドットブロットハイブリダイゼーション ρ 因子の検出に使用したプローブは, oxc^{10} , frc^{9} の塩基配列を利用して作成した. それぞれ下記に示す

5'-NBAAAAAAAGGCCTTCAAGT-3' 5'-NBAAAAAAAGGCACTC-3'

但し、B=C+G+T、N=A+C+G+T

キットは、化学発光核酸検出システムである Gene Images 3'-Oligolabelling and CDP-Star Detection System (アマシャム ファルマシア バイオテク(株)) を用いた、ハイブリダイゼーション温度は 42° C で行った.

結 果

1. 日本人におけるヒト糞便中 O. formigenes (OxB) の検出

アッセイは3方法で結果をえた. 第1は PCR 法に

て検出した結果である. 男性54名中43名 (検出率80%),女性34名中21名 (62%)が検出できた. 男女総数92名の内70%に当たる. 一方,培養法に基づく方法では,男性40名中25名 (62%),女性24名中12名 (50%)が陽性であった. 総数64名中58%に相当する. Table 1 には,上記方法にて共にアッセイした結果を示した. 試料は男性40名,女性21名で行った. 両アッセイ陽性の者は男性24名 (60%),女性8名 (38%)であり,逆に陰性の者は男性2名,女性5名であった.

- 2. シュウ酸分解菌の関連遺伝子解析
 - (1) プロモーター領域

O. formigenes (OxB) の oxc¹⁰⁾, frc⁹⁾ の DNA シークエンスにしたがって, B. breve の塩基配列を Fig. 3A に示した. OxB と比較すると, oxc, frc 共に, Sidhu ら⁹⁾の解釈にしたがい, ATG 開始コドンより 5′上流へ向かって, それぞれ, リボソーム結合部位, TATA ボックス, RNA ポリメラーゼ結合部位の塩基配列が一致していた. 塩基の相違は太字で示した.

(2) oxc の TPP 部位

TPP 結合部位 (1,351~1,437 bp) における OxB

	oxc	-54 -45 -36 -27
A	OxB	: CGGA <u>ATTGAC</u> GTTAA ACAACGT <u>TTATCA</u> AA ACCAACCAAA <u>GAAAG</u>
	B. breveve	: CGGA <u>ATTGAC</u> GTTAA AC CG CGT <u>TTATCA</u> AA ACCAACCAAA <u>GAAAG</u>
		-9 1 36
	OxB	: <u>G</u> TATTACTC <u>ATG</u> AGT AACGACGACAATGTA GAGTTGACTGATGGC
	B. breve	$:\underline{\mathbf{G}}\mathbf{T}\mathbf{A}\mathbf{T}\mathbf{T}\mathbf{A}\mathbf{C}\mathbf{T}\mathbf{C}\underline{\mathbf{A}}\mathbf{T}\underline{\mathbf{G}}\mathbf{A}\mathbf{G}\mathbf{T}\ \mathbf{A}\mathbf{A}\mathbf{C}\mathbf{G}\mathbf{A}\mathbf{C}\mathbf{G}\mathbf{A}\mathbf{T}\mathbf{G}\mathbf{T}\mathbf{A}\ \mathbf{G}\mathbf{A}\mathbf{G}\mathbf{T}\mathbf{T}\mathbf{G}\mathbf{A}\mathbf{C}\mathbf{T}\mathbf{G}\mathbf{A}\mathbf{T}\mathbf{G}\mathbf{G}\mathbf{C}$
	frc	-81 -72 -40
	$Ox\bar{b}$	· TTTC <u>TTGGCA</u> GTTCC TTTCGGGGAAACAGC CACAGA <u>GAATAA</u> AAA
	B. breve	: TTTC <u>TTGGCA</u> GTTCC TTTCGGGGAAACAGC CACAGA <u>GAATAA</u> AAA
		-36 -8 I
	OxB	: CCAAAAGTTGTACCA ACGACAAG <u>GAAATG</u> A GAAATT <u>ATG</u> ACTAAA
	B. breve	$: CCAAAAGTTGTACCA\ ACGACAAG\underline{GAAATG}A\ GAAATT\underline{ATG}ACTATA$
	oxc	1351
В	OxB	: <u>GGCGAT</u> AGCGCATTC GGTTTCTCCGGTATG GAACTGGAAACCATC
	B. breve	$: \underline{GGCGAT} AGCGCATTC \ GGTTTCTCCGGTATG \ GAACTGGAAACCATC$
		1396 1400 1437
	OxB	: TGC <u>CGT</u> TACAACCTG CCAGTTACCGTTATC ATCATG <u>AACAAT</u>
	B. breve	: TGCCCTTACAACCTG CCAGTTACCGTTATC ATCATGAACAAT

Fig. 3. Nucleotide sequences of each gene. A: The promoter regions of oxc and fre genes in Bifido bacterium breve strain. From the ATG at position 1 to 5' upstream, ribosome-binding site, TATA box, and RNA polymerase-binding site are shown underlined. B: The TPP-binding site of oxc gene in B. breve strain.

^{*} Total no. 61 healthy volunteers (40 males and 21 females).

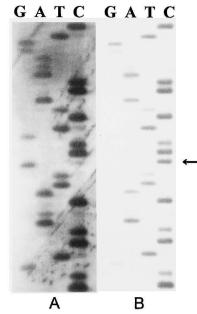


Fig. 4. Sequencing results of the amplified oxc gene. A: OxB strain. B: B. breve strain. Nucleotide 1400 is cytosine not guanine (arrow).

と *B. breve* との相違は, 1,400 bp のGがCに変化 (C<u>G</u>T→C<u>C</u>T) の1塩基のみであった (Fig. 3B, Fig. 4 の矢印, 上端は 5′側).

(3) OxlT の遺伝子

OxB の1,027~1,170 bp の範囲で, *B. breve* の場合 と塩基配列を比較したところ, 100%ホモロジーを示 した. トランスメンブレン切片11にある355番アミノ 酸のリジン (AAA) も存在した (データは略).

(4) ρ 因子の確認

oxc, frc 共に OxB, B. breve において陽性であった (デ-タは略).

考察

ヒト糞便からの O. formigenes の検出を初めて男女別で試みた. 検出率はいずれのアッセイ法でも男性の方が高かった. 特に、PCR 法による検出感度が高く、簡便性から考慮しても検出法として適している. 健康人が腸内細菌として、O. formigenes などを持つ割合は、およそ60~80%の範囲で報告されてい

 $a^{5,7,8,13\sim 16)}$ われわれの結果もおおかたこの範囲に 入っていた. この結果は, O. formigenes が腸管内に生 息しシュウ酸吸収を制御することによって、宿主と共 生関係を維持していることを示唆する. この菌の性差 による存在率の差や菌の有無における宿主の要因につ いては、今後のさらなる研究が必要である. 要因の1 つとして、宿主の食物摂取の偏り、ストレス、抗生物 質の服用, 老化など環境要因の影響が考えられよう. すなわち、腸管内菌叢のバランスが崩れることで、宿 主との共生関係に影響を与え, 有用な細菌も減らすこ とになる8) 三上らは、年齢が上昇するにしたがって シュウ酸分解菌の存在する割合が低下することを示し た17) また, 腸内の pH (健康人では6.5) は, 良好 な細菌バランスを決定する要因となることから、日常 摂取する食物の重要性も推測される. Duncan らは, OxB 株の生理学的特性として、Bifido bacterium が繁殖 しやすい弱酸性条件においても、耐性を持つ(生存率 が高い)との in vitro による興味ある報告をしてい る18)

尿路結石の生涯罹患率は、1995年における臨床統計 では男性9.4%, 女性4.1%であり, 男女比は大体 2.5:1と報告されている. 女性における O. formigenes の腸内存在率が男性より15%程度低い結果を 示したが、結石形成との因果関係は不明である. Sidhu らによれば、O. formigenes は乳児期に腸内に棲 み付き始めると報告している¹³⁾ 一方, 尿路結石患 者における存在率は30%程度と低く、結石再発回数が 増すごとにさらに低くなる $^{7.8.15)}$ そして、O. formigenes の存在率とシュウ酸カルシウム尿路結石の再 発回数は、相関することが報告された^{7.8)} その他の 症例では、Cl1-チャネル疾患である嚢胞性線維症 (cystic fibrosis) 6) では16%, Crohn's 疾患19)では 11%と低い. また, 抗生物質の処置を受けた結石患者 は、腸管内 O. formigenes の存在を無くす可能性があ り、高シュウ酸尿を引き起こすことも考えられるの で,注意が必要であろう7,20)。

 $O.\ formigenes$ の基準株である OxB 菌体には、2 つの酵素タンパクと 1 つの膜タンパクを含む. 前者においては、可溶性タンパクの 10.5% が oxalyl-CoA decarboxylase、0.2% が formyl-CoA transferase として含有し、シュウ酸塩の分解に作用する 17) とト腸管より分離された他の菌種では、 $Eubacterium\ lentum^{21}$ 、 $Enterococcus\ faecalis^{22}$ の報告がある. oxc と frc 両遺伝子におけるプロモーター領域の塩基配列を、OxB の場合と $B.\ breve$ について比較した. ATG翻訳開始コドンの 5'-上流、oxc は 5'-GAAAGG-($-14\sim-9$ bp)、frc は 5'-GAATG-($-13\sim-8$ bp)の各-10領域にリボソーム結合部位が見られ、他の重要部位も塩基配列は一致し保存されていた。Oxalyl-

CoA decarboxylase は、シュウ酸塩分子のオキソ基 (O=) に隣接した C-C 結合を切断する触媒反応時に 補酵素として TPP を利用する²³⁾ oxc 遺伝子に含む このモチーフは29アミノ酸残基より成り、GD に始ま り NN に終わる高度に保存されているシークエンス である¹⁰⁾ B. breve においては、OxB と塩基配列の ホモロジーは高い. 1,400 bp のGがCに変異 (R→P) しているが、重要モチーフからははずれている. OxlT は、細菌の細胞膜にある疎水性に富むメンブレ ン結合輸送タンパクであり、シュウ酸塩 (oxalate²⁻) の取り込みとギ酸塩 (formate1-) の排出にかかわる 12のトランスメンブレン切片より成る. 特に11番切片 に, 唯一の陽電荷 (Lys³⁵⁵) を持つので, アニオン基 質の結合と移動に関与していると考えられている²⁴⁾ PCR 増幅した B. breve の DNA は、この11番切片を 含むが、Lys³⁵⁵ の AAA の存在を確認し、その塩基 配列は OxB の場合と一致した. ρ 因子(非依存型 ターミネーター) の oxc は 1,758~1,783 bp, frc は 1,311~1,331 bp の範囲によるパリンドローム構造と その後に続く、7つのチミジン (T) より成る. ドッ トブロットハイブリダイゼーションにて B. breve の oxc, frc において陽性であることを確認した. 以上よ り, B. breve においては, 3つの遺伝子の部分的な塩 基配列の解明であるが、RNA ポリメラーゼ結合部位 やその他の重要と考えられる塩基配列部位の比較にお いて、OxB と高いホモロジーをえた、腸管内に棲む シュウ酸分解菌は唯一ではないので、PCR による検 出は簡易であっても、菌種(株)の同定には、慎重に分析 技法を駆使すべきであろう.

Sidhu らは, oxc, frc 遺伝子について, 共にプロ モーター領域と ρ 非依存型ターミネーターを持つな どの理由から、ポリシストロニック オペロンの一 部ではないと推測している⁹⁾ Hokama らは, O. formigenes より2つの酵素タンパクの抗体を作成し, ウェスタンブロッティングにて E. faecalis に両タンパ クが在ることを確認した. さらに, 同菌体と O. formigenes との whole-cell lysate による SDS-PAGE に て, OxlT の 40 kDa タンパクも検出した²²⁾ また, Campieri らは、特発性のシュウ酸カルシウム尿路結 石症患者に凍結乾燥した乳酸菌ミックスを毎日摂取さ せることにより、シュウ酸の腸内吸収を減らすこと で、シュウ酸尿を減じることができると報告した. そ して、in vitro による各細菌のシュウ酸分解活性を調 べ、Bifidobacterium infantis が最も適した細菌との結果 を示した.しかし、使用した6種の各乳酸菌について PCR による oxc, frc, OxlT の DNA の増幅を試みた が、検出はできなかった25) 各遺伝子が実際に無い とすれば、シュウ酸塩を分解するのは何に起因するの か疑問が生じよう. われわれの方法による PCR で

は,その反応液や反応サイクルなどの最適条件を検討してから行っている.同じ Bifido bacterium の菌種である B. breve において,3つの遺伝子の DNA の増幅は可能であった.

最近では、高シュウ酸尿状態下のラットに O. formigenes を投与するプロバイオティック治療にて、尿中シュウ酸のレベルを下げる研究²⁶⁾、さらにヒトにおいても、同菌種を用いて in vivo で試験的に検討されている¹⁸⁾ 腸内細菌は約100菌種に及び、ほとんど嫌気性菌で占められている.特に、Bifidobacterium は腸内細菌バランスを良い状態に保つのに役立っている.今後も、ヒトの健康維持にとって有用な細菌の探索が望まれる.

結 語

日本人の腸管内 O. formigenes 存在率は、既報告と同様の割合を示した。性別では、女性は男性より存在率が15%程度低かった。PCR 法は検出感度が高く検出法として有用である。B. breve はシュウ酸分解活性を有し、さらに OxB 株に含む3つの遺伝子を同様に保存されていることが示唆されたので、シュウ酸分解菌である可能性を述べた。

本研究にご協力いただきました,千葉大学医学部附属病院 検査部 鈴木理恵子,坂間慶子両氏に深く感謝致します。

文 献

- 1) Holmes RP, Goodman HO and Assimos DG: Contribution of dietary oxalate to urinary oxalate excretion. Kidney Int **59**: 270-276, 2001
- Robertson WG and Hughes H: Importance of mild hyperoxaluria in the pathogenesis of urolithiasisnew evidence from studies in the Arabian Peninsula. Scanning Microsc 7: 391-402, 1993
- 3) Dawson KA, Allison MJ and Hartman PA: Isolation and some characteristics of anaerobic oxalate-degrading bacteria from the rumen. Appl Environ Microbiol 40: 833-839, 1980
- 4) Allison MJ, Dawson KA, Mayberry WR, et al.: Oxalobacter formigenes gen. nov., sp. nov.: oxalate-degrading anaerobes that inhabit the gastro-intestinal tract. Arch Microbiol 141: 1-7, 1985
- 5) Allison MJ, Cook HM, Milne DB, et al.: Oxalate degradation by gastrointestinal bacteria from humans. J Nutr 116: 455-460, 1986
- 6) Sidhu H, Hoppe B, Hesse A, et al.: Absence of Oxalobacter formigenes in cystic fibrosis patients: a risk factor for hyperoxaluria. Lancet 352: 1026-1029, 1998
- 7) Sidhu H, Schmidt ME, Cornelius JG, et al.: Direct correlation between hyperoxaluria/oxalate stone disease and the absence of the gastrointestinal tractdwelling bacterium Oxalobacter formigenes: possible

- prevention by gut recolonization or enzyme replacement therapy. J Am Soc Nephrol 10: S334-S340, 1999
- 8) Kumar R, Mukherjee M, Bhandari M, et al.: Role of Oxalobacter formigenes in calcium oxalate stone disease: a study from North India. Eur Urol 41: 318-322, 2002
- Sidhu H, Ogden SD, Lung H-Y, et al.: DNA sequencing and expression of the formyl Coenzyme A transferase gene, frc, from Oxalobacter formigenes.
 I Bacteriol 179: 3378-3381, 1997
- 10) Lung H-Y, Baetz AL and Peck AB: Molecular cloning, DNA sequence, and gene expression of the oxalyl-Coenzyme A decarboxylase gene, oxc, from the bacterium Oxalobacter formigenes. J Bacteriol 176: 2468-2472, 1994
- 11) Abe K, Ruan Z-S and Maloney PC: Cloning, sequencing, and expression in *Escherichia coli* of OxlT, the oxalate: formate exchange protein of Oxalobacter formigenes. J Biol Chem **271**: 6789-6793, 1996
- 12) Kodama T, Akakura K, Mikami K, et al.: Detection and identification of oxalate-degrading bacteria in human feces. Int J Urol 9: 392-397, 2002
- 13) Sidhu H, Enatska L, Ogden S, et al.: Evaluating children in the Ukraine for colonization with the intestinal bacterium Oxalobacter formigenes, using a polymerase chain reaction-based detection system:

 Mol Diag 2: 89-97, 1997
- 14) Doane LT, Liebman M and Caldwell DR: Microbial oxalate degradation: effects on oxalate and calcium balance in humans. Nutr Res 9: 957-964, 1989
- 15) 武井一城:尿路結石形成におけるヒト腸管内シュウ酸分解菌の意義. 千葉医誌 **75**: 33-39, 1999
- 16) Kwak C, Jeong BC, Lee JH, et al.: Molecular identication of *Oxalobacter formigenes* with the polymerase chain reaction in fresh or frozen fecal samples. BJU Int 88: 627-632, 2001

- 17) 三上和男, 溝口研一, 茂田安弘, ほか: 非結石症 例における腸内シュウ酸分解菌の存在についての 検討. 日本尿路結石症学会第11回学術集会記録集: 41-44, 2001
- 18) Duncan SH, Richardson AJ, Kaul P, et al.: Oxalobacter formigenes and its potential role in human health. Appl. Environ Microbial 68: 3841-3847, 2002
- 19) Allison MJ, Daniel SL and Cornick NA: Oxalatedegrading bacteria. In: Calcium oxalate in biological systems. Edited by Khan S, CRC Press, Inc, Boca Raton, FL, pp 131-168, 1996
- 20) Siener R, Ebert D and Hesse A: Urinary oxalate excretion in female calcium oxalate stone formers with and without a history of recurrent urinary tract infections. Urol Res 29: 245-248, 2001
- 21) Ito H, Miura N, Masai M, et al.: Reduction of oxalate content of foods by the oxalate degrading bacterium, Eubacterium lentum WYH-1. Int J Urol 3: 31-34, 1996
- 22) Hokama S, Honma Y, Toma C, et al.: Oxalate-degrading Enterococcus faecalis. Microbiol Immunol 44: 235-240, 2000
- 23) Hawkins CF, Borges A and Perham RN: A common structural motif in thiamin pyrophosphate-binding enzymes: FEBS Lett 255: 77-82, 1989
- 24) Fu D-X, Sarker RI, Abe K, et al.: Structure/function relationships in OxIT, the oxalate-formate transporter of *Oxalobacter formigenes*. J Biol Chem **276**: 8753-8760, 2001
- 25) Campieri C, Campieri M, Bertuzzi V, et al.: Reduction of oxaluria after an oral course of lactic acid bacteria at high concentration. Kidney Int 60: 1097-1105, 2001
- 26) Sidhu H, Allison MJ, Chow JM, et al.: Rapid reversal of hyperoxaluria in a rat model after probiotic administration of Oxalobacter formigenes. J Urol 166: 1487-1491, 2001

Received on December 9, 2002 Accepted on March 17, 2003